

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人石見音楽文化振興会		
所在地	島根県江津市	設立年	2017年
運営主体	一般社団法人石見音楽文化振興会、浜田市、江津市		
事業目標	この地域において、若年層からの音楽文化の振興を図る。 小学校、中学校、高校、大学、というカテゴリーにとらわれず、地域において幅広い音楽活動を実施する。		
きっかけ	島根県の中でも、ここ石見部においては音楽文化に触れあうことが少ない。また、音楽に親しもうとしてもその機会が少なく、楽器演奏などのレベルが総じて低い。		
団体・組織等の連携	<p>The diagram illustrates the organizational structure and partnerships. At the top left is the '一般社団法人 石見音楽文化振興会' (General Corporation Iwami Music Culture Promotion Association). An arrow labeled '招聘' (Recruitment) points to the '吹奏楽指導者 藤重 佳久' (Conductor/Supervisor 藤重 佳久). From the conductor, an arrow labeled '指揮 音楽監督' (Conducting/Music Supervision) points to the 'ハイブリッドウィンドオーケストラ' (Hybrid Wind Orchestra). An arrow labeled '移住促進' (Relocation Promotion) points from the corporation to '各地音楽大学卒業の若手演奏家' (Young performers who graduated from various music universities). An arrow labeled '構成' (Composition) points from these performers to the hybrid wind orchestra. A large blue arrow labeled '運営 指導' (Operation/Supervision) points from the hybrid wind orchestra to the '浜田ジュニアシンフォニックオーケストラ(仮称)' (Hamada Junior Symphony Orchestra (tentative name)). To the right, the '市教育委員会' (City Education Committee) is shown with an arrow labeled '連携・情報交換' (Cooperation/Information Exchange) pointing to the conductor. Below it, a box lists '市内小、中学校、高校、大学 音楽科教員・吹奏楽部顧問' (Music teachers and band department advisors in elementary, middle, high, and university schools in the city). A dashed line connects this box to '市内各学校吹奏楽部 市内各中学校吹奏楽部' (Band departments in elementary, middle, and high schools in the city). An arrow labeled '指導 活動支援' (Guidance/Activity Support) points from the conductor to these school bands. Finally, an arrow labeled '参加' (Participation) points from these school bands to the Hamada Junior Symphony Orchestra.</p>		
活動場所	浜田市、江津市 いわみ文化振興センター、振興会江津スタジオ 浜田高校、県立大学		
活動概要	<p>○当初は、中学生をターゲットにしての活動予定だったが、中学生の参加がなかなか見込めなかったため、ターゲットを小学校から大学生と範囲を広げて、世代間交流も交えて行った。</p> <p>○コロナの影響もあったが、募集チラシを何回か配布することで参加者を募り、月2～3回、1回あたり2時間程度の練習を行った。</p>		

○本事業による成果

- ・これまで、楽器指導や楽器演奏の機会に恵まれなかった若年層にそういう機会を与えることができた。
- ・小学校では、指導教師が居らず、鼓笛隊や吹奏楽などの活動が次々に廃止に追い込まれており、こうしたことに歯止めをかけるきっかけとなっている。
- ・中学校においても、教員に代わってUIターンの若手音楽家による楽器指導を行っており、教員の負担の軽減に寄与している。
- ・高校では、楽器指導に加えて、地域指導者として部活動を中心的に担っており、顧問の代わりを果たすなど、大きな成果を上げている。
- ・地域における練習については、学校の部活動とは違い他校との交流ができることに加えて、対象世代を拡大したことにより、県大生が小学生を指導するなどのように、年上が年下を面倒を見て、年下が年上を慕うような関係を構築することができ、音楽文化を振興する環境創出に大きく寄与している。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・指導法については、藤重先生の監督のもと、音大卒の音楽家が指導することとしており、少なくとも学校の部活動以上のスキルで指導することができた。
- ・音大で学んできた知識を活かし、演奏指導だけではなく、楽器の扱い方、団体に演奏する時の心構えや、吹奏楽クラブで活動するための基本的なマナーなども指導ができています。
- ・指導者のスキルについても、定期的に著名な音楽家を招へいし、個々の演奏技術を確認するなど、研鑽に取り組んでいる。

○運営上の工夫

- ・楽器の調達については、特に中学校の理解が進まないために、学校所有の楽器が使用できていない。そのため、参加者が所有する楽器を使用するほか、振興会が所有する楽器を貸し出すほか、廃校となって学校で使用されなくなった楽器を改修し、リペアして貸し出しを行った。
- ・資金の調達には、依頼演奏などを行い、演奏料の収入を得るなど、自主財源の確保に努めるほか、県や市による補助金なども利用している。
- ・石見文化振興センターのホールを使用する場合は、一般来場者の出入口とは別に、地域吹奏楽クラブ専用の出入口を設け、センターの管理者が不在であっても使用可能なルールを取り決めている。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・打楽器のような簡単に持ち運びのできない楽器の使用については、江津スタジオや楽器使用に理解のある浜田高校の吹奏楽部室などで練習するしかなく、練習会場の確保には課題がある。
- ・教育機関との連携については、部活動の地域移行の理解が深まっておらず、特に中学校では全く協力が得られず、参加者を学校を通じて募ることができなかった。
- ・そのため、参加者募集については、新聞折込等の手段に頼らざるを得ず、当初に無かった経費がかかった。
- ・一方、小学校や高校では一定程度の理解が得られることができ、楽器の使用や練習会場の貸し出しなど、協力的であった。
- ・自治体等の補助金は様々活用してきたが、いずれも継続的な補助金ではない。運営経費を継続的に賄う補助金は皆無であり、財政的自立を図る上では、大きな課題である。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・未だ、活動の周知や理解度が深まっておらず、参加者の伸びは鈍い。これを解決するため、藤重先生のご尽力により5月21日にアメリカ空軍太平洋音楽隊を招聘し、地域吹奏楽クラブが同じステージに立てるよう企画立案した。これにより、地域吹奏楽クラブへの参加を促しながら、活動の周知も図る。
- ・この事業は、文化庁の補助が無くとも、振興会の事業として継続していく予定である。そのためには、参加者を増やす必要があるが、学校の理解も不可欠である。令和5年度は改めて学校側への事業説明を徹底したい。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	38名(小学生16名、中学生4名、高校生9名、大学生9名)
	学校名	石見小学校、原井小学校、松原小学校、国府小学校、高角小学校、渡津小学校、桜江小学校、浜田第2中学校、浜田第3中学校、浜田高校、邇摩高校、石見智翠館高校、島根県立大学、リハビリテーションカレッジ
	募集方法	チラシによる 学校で配布するほか、新聞折込を実施
指導者	人数等	5名 藤重先生、振興会会員4名
	募集方法	振興会より要請
参加者の移動手段		保護者による送迎
活動費用	指導者謝金等	指導謝金 1,000円/時間、交通費 20円/キロ
	その他	特になし
活動財源	会費	会費 1,000円/月
	その他	特になし
スケジュール	基本活動	江津スタジオ 月2回 石見文化振興センター 月2回 土日の10時~12時 終盤は、浜田高校 月2回 日の13時30分~16時30分
	年間	令和4年6月~令和5年3月
保険加入等		該当なし

【活動の様子（写真添付）】

